



春のお彼岸

三月十八日〜二十三日です

(お花の用意があります)

混乱した社会状況に生きる我々は、「大変な世の中になったな、これではしょうがない。」と感情を中心にものを考えがちですが、「感情」を出発点に考えた結果、行き着くところは、悲観的状況です。これから述べる「六波羅蜜」の

「意志」を中心にものを考える習慣をつけると、率直な状況に行き着きます。思うに人生には、様々な「川」があり、何か目標を達成するには、一つの大きな

「川」を渡らなければなりません。その中で最も大きな川が彼岸に渡る川で、人生の最終目標と言っても過言ではないと思えます。従って、お彼岸とは、あの世ではなく、この現実を理想の世界にすることだと思えます。仏教では迷いの世界からさとりの世界へ渡るのが六つの船

「六波羅蜜」があると教えています。どの乗り物も悟りへ渡るための修行・実践の「意志」を持って努力することを教えています。今回は、「六波羅蜜」について詳しく書きたいと思えます。

①**布施(財や心を他人に施すこと)**
「布施」の「布」は「普く」、「施」は「施す」を意味します。この世は施しあって成り立っています。人間は施し合い、持ちつ持たれて世の中が成り立っています。自分が生きているのも、直接・間接にだれかの世話になっています。生きていくというより生かされていると言うべきかも知れません。ちなみに、布施の語源は梵語の「ダナ」、漢字にすると檀那です。檀那寺も旦那も「ダナ」が語源です。布施は施すことですが、人の為になんかをしてあげるのではなく、自分の為にする事なのです。見返りや感謝を求めたら「布施」にはなりません。

②**持戒(戒を守り他人に迷惑をかけること)**
私たちは生きていく中で、人のためになることをしなければなりません。人のためになることはするが、ならないことはしない。そのために「戒」を守りこれに犯さない事です。



水谷山 寶青寺

仏教の「戒」には、生き物を殺さない、盗まない、邪淫を行わない、等がありますが、実際これを守るのには難しい。少なくとも、他人の迷惑になる事は慎みたいものです。

③**忍辱(不平不満を言わない・腹を立てない)**
仏教の戒めを守るのはとても難しい。人のためになると思っただけで、逆にうらみを買ってしまう。そんなときに腹が立つものです。しかし、我慢しなければなりません。これも「忍辱」です。お釈迦様は、辱の心を怒らない、復讐など考えない、相手に攻撃する心を持たないと説いています。

④**精進(常に努力をおしまない・全力でことにあたると)**
堪忍も辛抱も大切、といっても人は前に進まなければなりません。そこで必要な精進です。精進とは

⑤**智慧(真実を見る智慧・正しい判断力)**
智慧は、今までの五つの徳目の根幹をなすものです。大切なことは、「智目行足」です。智慧の目で見て、行いの足で歩いていくことが大切です。

⑥**相愛(愛し合うこと)**
男女がお互いに愛し合う事を「相愛」と呼び、「相愛」はサンスクリット語の「プリヤ・ブアーディター」の事で、「愛語」と訳されています。仏教では「四摂法」という教えがあります。「愛語」は、その中の一つです。ちなみに、「四摂法」とは、①布施、②履行、③同事、④愛語の四つです。①の布施は、人に金品を施す事、②の履行は、人に利益をもたらす事、③の同事は、他人と同じ立場に自らを置く事、④の愛語は、優しい言葉、優しい表情の事です。お互いに思い合い、相手の立場にたち、その人の利益を考える、「相愛相愛」とは、そのような関係でなければなりません。

①**お釈迦様の教え**
「汝等比丘、我が滅後に於いて、當に波羅提木叉を、尊重し珍重し敬すべし。闇に明に導いて、貧人の宝を得るが如し。當に知るべし此は即ち是れ女等が大師なり。若し我れ世に住するとも、此に異なること無けん。」(三寶印)お釈迦様の教えで一番大切なことは、この世の道理、仕組みをしっかりと心に持ちなさいという三法印(三つの真理)の教えです。①諸行無常(世の中のすべてのものは動く動かざるとはかわからず、移り変わっている)②諸法無我(この世の道理に従って、はじめてやすらぎの世界を得ることができ寂靜(この世の道理に従って、はじめてやすらぎの世界を得ることができら、これを法燈明といひます。この道理を会得した人を覺者(さとったお方)といひ、さらに、この覺者を仏陀の弟子で「さとりを修する大力量の人」といひます。声門(教えを著実に聞く)緣覺(さとりを實踐する)菩薩(さとりに多くの苦悩にあえぐ人々のために行ずる八種の道理を「八大人覺」といひます。これは、私たちが正しく物事を見つめ、それを正しく判断し、この世の中が平和で、さわりのない世界であるようにという願いを実現することにあります。この平和な世界実現こそ多くの「ほとけさま」の「念」であり「願い」なのです。私たちも、その念願にかなうような日々を送りたいものです。

正しい道に向かって進むことです。仏教では、苦しみの原因を滅する方法として正見(正しく見る)正思惟(正しい考え)正語(正しい言葉)正業(正しい行い)正命(正しい生活)正精進(正しい努力)正念(正しい意識)正定(正しい精神統一)の「八正道」をあげています。このうち、「正精進」が六波羅蜜の「精進」と同様の意味を持っています。

⑤**禪定(心を静に保つ・反省を忘れない)**
苦しみに耐え、正しい道に向かつて精進して生きていくわけですが、それには、間違った心、乱れた心、迷いの心を鎮めなければなりません。静かな心で落ち着いて行動する。それが禪定です。

